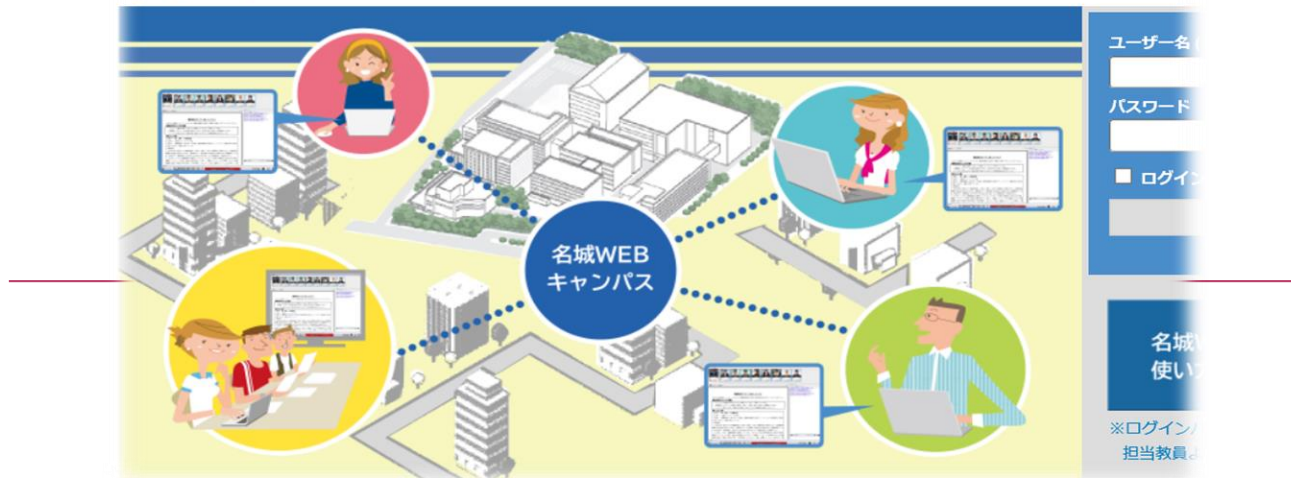


# 糖尿病患者をテーマにしたWEBキャンパス の参加型チーム医療の実践と成果

名城WEBキャンパス Meijo WEB Campus



2020年1月26日  
名城大学薬学部  
半谷 眞七子

# 本日の話題

- 1.名城大学の多職種連携教育（IPE)の特徴
- 2.糖尿病患者をテーマにしたWEBキャンパスの参加型チーム医療(糖尿病教室IPE)の実践と成果

# 新しい薬学教育モデルコアカリキュラム

## A 基本事項

### (4) 多職種連携協働とチーム医療



GIO 医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。
3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。
4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。  
(態度)
5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)

**薬学教育ではチーム医療や多職種連携の教育は必須！！**

# 学部と医療現場を結ぶ教育システム

名城大学は医療系学部や医療施設を持たないが、臨床実習の場を確保するため医薬連携システムを構築

学部学生にも臨床に接する機会を増やし、臨床薬学へのモチベーションを向上させる

名古屋大学医学部



安城厚生病院

名城大学薬学部



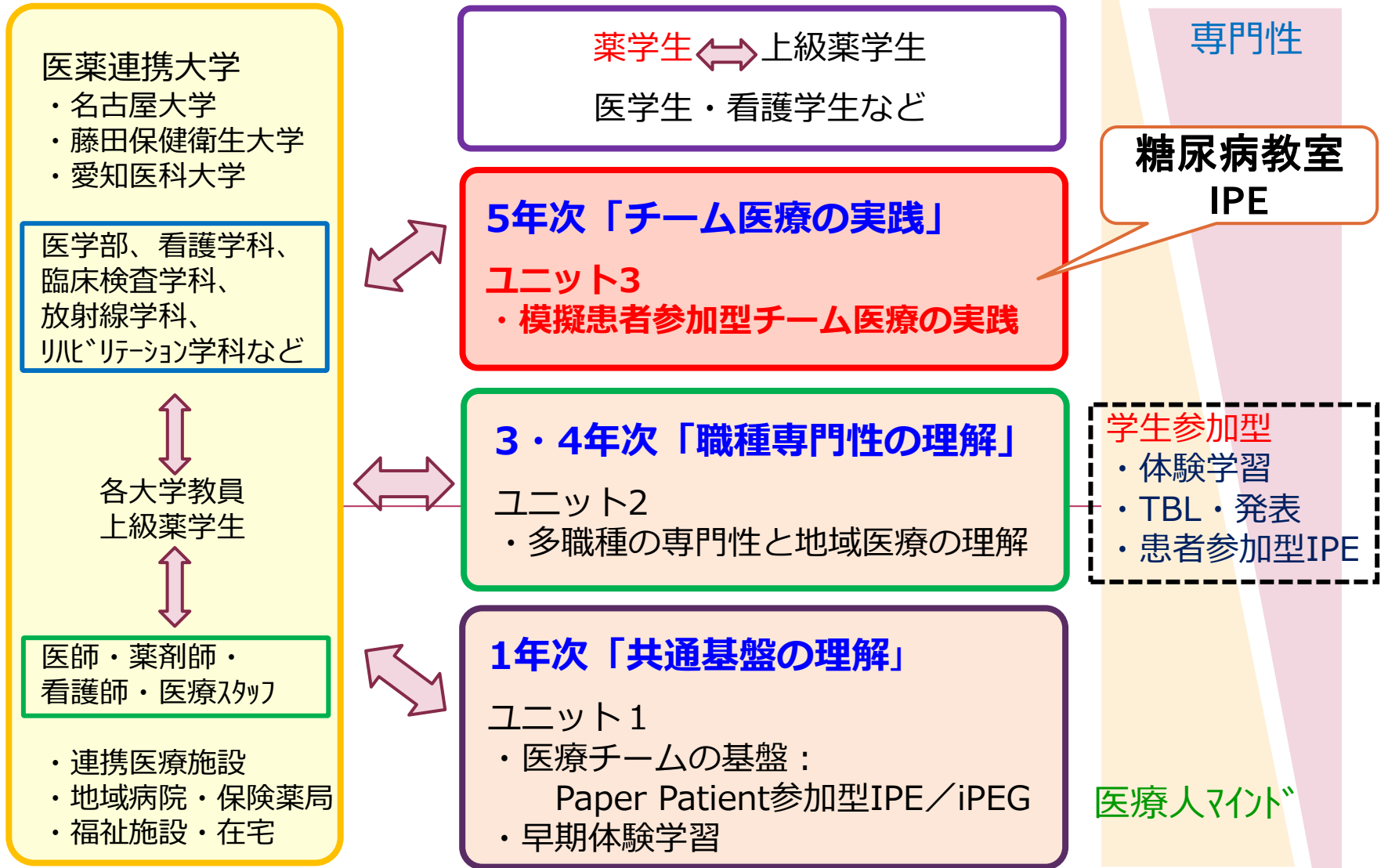
医薬連携

藤田医科大学



愛知医科大学

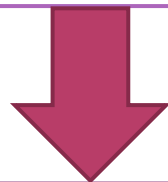
# 体系的・段階的なチーム医療学習の全体像



薬学生が多職種の学生と共に体系的かつ、段階的に医療チームの一員として果たす役割についての知識・態度・能力の習得を目指す

# 糖尿病教室IPE

複数学部の医療系学生が、糖尿病教室の準備と実施の過程で、**連携の必要性**と、患者が学びやすい糖尿病教室の実践のために、**お互いから、お互いについて、お互いに学ぶこと**



- 糖尿病治療における専門職連携の必要性を理解する。
- チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。
- **話し合う技術**として、ICTスキルを活用できる。
- グループ討議を通じた成果をわかりやすくまとめて、糖尿病患者に説明することができる。



# 「糖尿病教室IPE」のスケジュール

## 企画ワークショップ



## 糖尿病教室



事前学習



約1ヶ月  
準備期間



名城WEBキャンパス Meijo WEB Campus

3. 「糖尿病の食事」 簡単実践法！



「糖尿病の食事」 簡単実践法！  
～患者さんのタイプに合わせて～



WEBキャンパス  
を利用した  
学習・準備

10:00～ 10:30	講義と患者参加型の取り組み紹介
10:40～ 12:00	各グループでテーマを選択し、必要な患者教育ツールを選ぶ
13:00～ 14:50	各グループで患者中心の糖尿病教室を企画
15:00～ 16:00	中間発表
16:00～ 16:30	振り返りと次回の案内

12:00～  
14:00

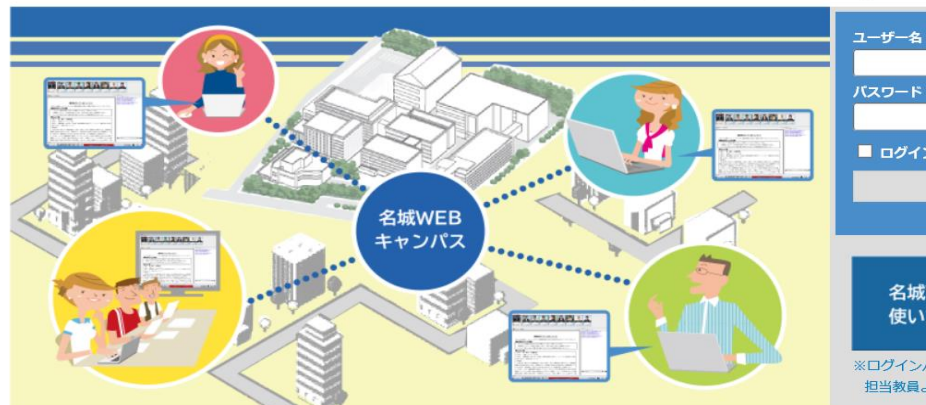
リハーサル及び準備

15:40～  
16:10

糖尿病教室  
(1グループ20分)

# 1カ月の準備期間 (WEBキャンパス)

名城WEBキャンパス Meijo WEB Campus



チャット、ファイル共有

テレビ会議システム



# 参加学生

参加人数	医学生	薬学生	看護学生	栄養学生	理学療法生
参加学年	3-6年	5年	2-4年	4年	4年
2014年	3	4	4	3	-
2015年	4	3	5	3	-
2016年	2	3	4	3	2
2017年	3	7	3	3	-
2018年	3	6	6	3	-
2019年	2	2	4	4	-
合計	17	25	26	19	2

# 2014年からの糖尿病教室の内容

	グループA	グループB	グループC
2014	3大合併症体験クイズとタオル体操	食事の盛り付け体験	寸劇：低血糖時の対処法
2015	参加型糖尿病クイズ	寸劇：「低血糖となった水戸黄門」	じゃんけん体操と間食の取り方
2016	災害時対応のクイズ	食事バイキングクイズ	風船バレー体操
2017	手ばかりクッキングクイズ	人気演歌曲を用いたオリジナル体操	糖尿病クイズと替え歌
2018	おうちでさんぽ！にあわせた体操	災害時に備えるクイズ	いちみんと一緒にタンパク質教室
2019	旅行に行く時に必要な備品、低血糖	糖尿病の治療で大切な運動療法(チューブ)・食事療法	

WEBキャンパス  
(TV会議)

事前学習

青字：運動療法

赤字：食事・栄養

緑字：治療・薬物療法

# WEBキャンパス テレビ会議システムの利用



テレビ会議システムの利用は  
1カ月に2回以上、最大4回



- 進捗状況の確認
- リハーサル

# WEBキャンパス チャット機能アクセス数

ファイルの共有→・進捗状況の確認  
・連絡事項の共有

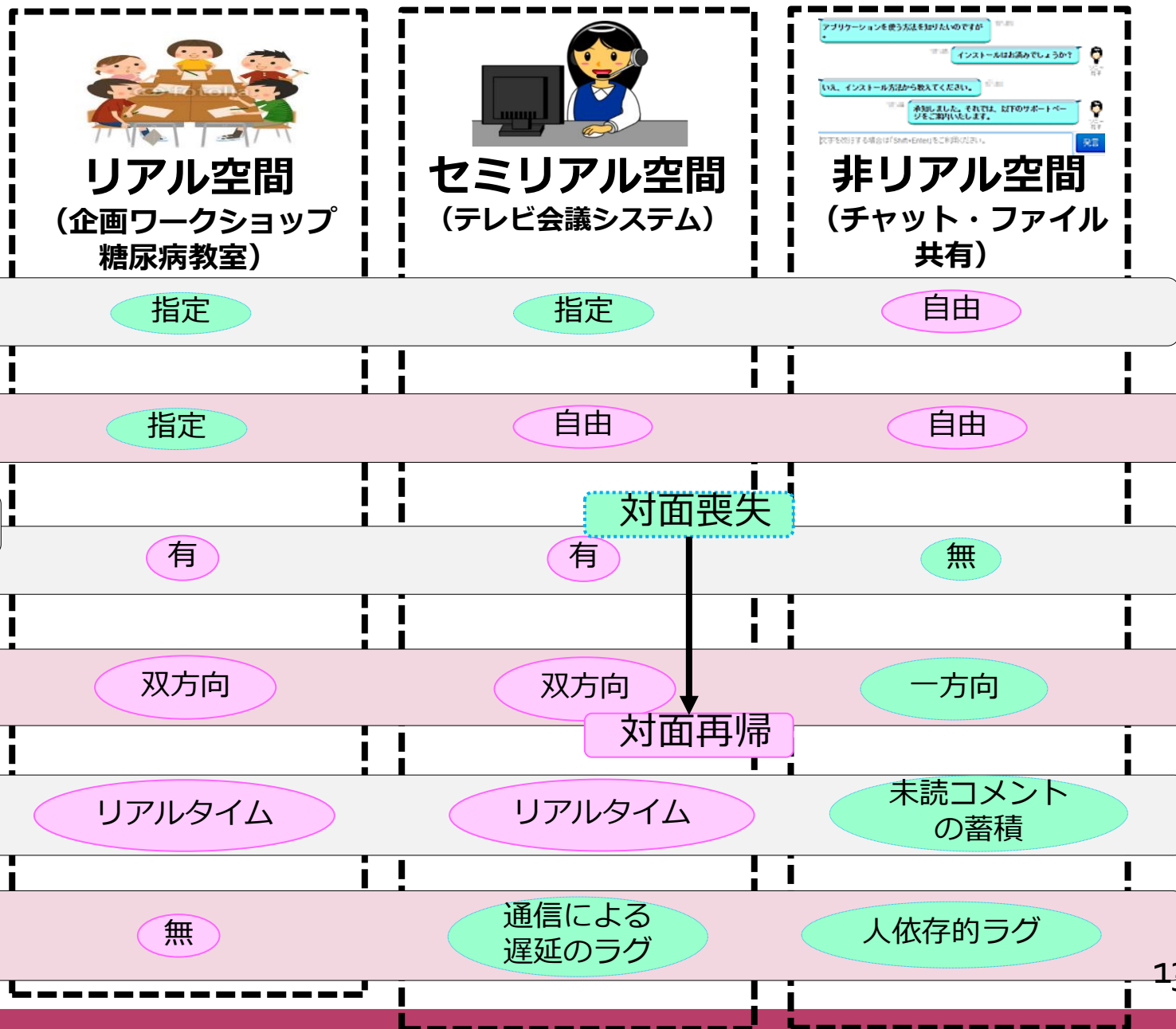


	グループA		グループB		グループC	
	学生	教員	学生	教員	学生	教員
2015	0	9				
2016	0	27	0	16	0	7
2017	0	17	16	13	0	19
2018	0	21	0	11	0	16
2019	34	8	45	13		

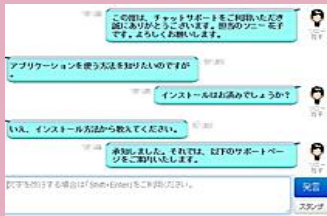

WEBキャンパスのチャット機能は  
教員の学生への連絡の場  学生達の話し合いの場へ

# 学生が捉えた教育空間の特徴

○ :positive  
○ :negative



# 各教育空間でのチーム医療への学生の意識変化

	リアル空間 (企画ワークショップ)	非リアル空間 	セミリアル空間 	リアル空間 (糖尿病教室)
患者	<ul style="list-style-type: none"> <li>大袈裟な動作</li> <li>音量の調節</li> <li>資料デザイン工夫</li> <li>気配り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かな配慮の見落とし</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりの形成</li> <li>親密な関係構築</li> <li>準備不足の反省</li> </ul>
他職種	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解不足</li> <li>交流時間が少ない</li> <li>他職種連携の経験の乏しさ</li> <li>役割把握不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視点を知る機会</li> <li>心理的障壁減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心、興味の芽生え</li> <li>自分自身との知識範囲比較</li> <li>他職種と同じ土俵に立つ気持ち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他職種との協働</li> </ul>
自職種	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門分野の情報説明の難しさ</li> <li>歩調合せの難しさ</li> <li>相互理解の難しさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他学部の知識に対する配慮</li> <li>専門分野の情報共有の工夫の習得</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>達成感</li> <li>自職種の役割認識</li> <li>自己研鑽</li> </ul>

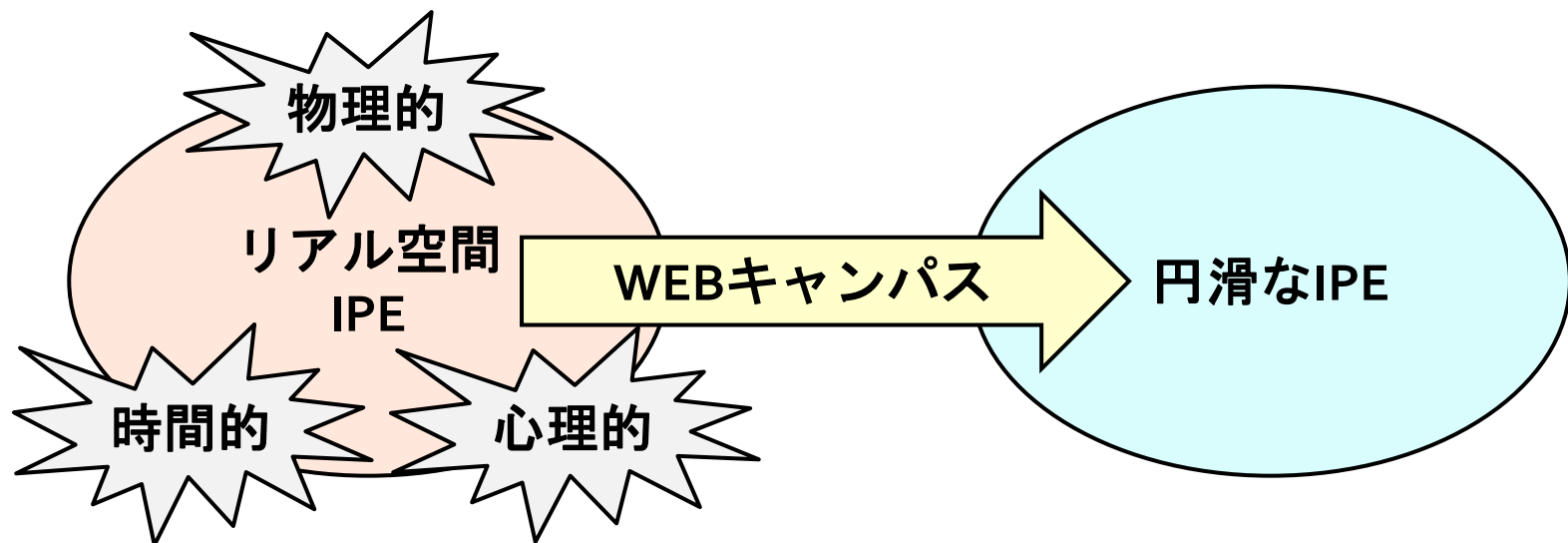
: positiveな意識変化

: negativeな意識変化



# WEBキャンパス導入によるIPEの効果1

- WEBキャンパスにより、共有時間・場所が自由化し、学生同士の交流機会が増加し、様々な障壁の解消が促され、円滑なIPEの実施が可能となった。先行研究のソーシャルネットワークを利用したIPEにおいても、**時間的・物理的・心理的障害**が軽減<sup>1)</sup>されており、WEBキャンパスを補助的な役割として活用するのは有用であると考えられる。しかしながら、WEBキャンパスの利用方法やPC環境、学生の情報リテラシーの問題もあり、配慮が必要である。



1) Amy L. et al : AN Interprofessional Diabetes Experience to Improve Pharmacy and Nursing Students' Competency in Collaborative Practice 2013

# WEBキャンパス導入によるIPEの効果2

- 学生同士が相互理解に至る過程は、「セミリアル空間」「非リアル空間」を利用しても他職種との関係を築くことは可能であった。しかし、「セミリアル空間」「非リアル空間」では、学生が**患者の視点を理解するには十分でなく**、ソーシャルネットワークを活用しながら「リアル空間」を主体としたIPEを行うことが望ましい。IPEの目的に準じた教育空間を選択することが必要である。

